

持続可能な社会・地域の担い手づくりのために。市民による自主的な社会教育を強化し、

学校教育とつなげて地域の教育を豊かにする⇒つなぎ手(コーディネイター)の発掘・配置を

(認定NPO法人)「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 理事

(NPO法人) エコ・コミュニケーションセンター 代表

森 良

<提案理由>

・「孤育て」:子育ての知恵、経験、楽しさが若い親に伝わらず苦しんでいる

①子どもたちの体験・学びの幅の狭さ

・子どもたちの自然、文化、生活体験の幅、将来の進路の選択肢の狭さ

↓

ひろげるには → 地域社会の本物の大人たちが関わり、子どもと大人の

↑

ダイナミックな学びあいをつくりだす(仕事、生き方、趣味、活動…)

②学校の教師には、現在過大な負担が押し付けられている

本来 教える、学習支援 に集中すべきなのに、部活、生活指導、管理事務などに追われている

③現在の施策では不十分 例)「学校支援地域本部コーディネイター」:学校に奉仕するボランティアのマッチングに
終始している

④文科省の推進するESD(持続発展教育、持続可能な開発のための教育)を学校、地域に定着させる

<具体的施策>

1、「子どもコミュニティプラットホーム」の全国100~1000ヶ所の実験的施行と検証

・特にコーディネイターの役割の検証(足を運び、発掘し、つなぎ、プログラム・プロジェクト化する)

2、「子どもコミュニティプラットホーム」のコーディネイターと学校支援地域本部コーディネイター、放課後支援
コーディネイター、社会教育主事など同じ地域の中で活動している教育、学習に関わるコーディネイターのプラ
ットホーム(地域協議会)をつくり、子どもに豊かな学びの機会をつくるための支援
策について協議、協働する

3、コーディネイターの財源について

立ち上げ期; 文部科学省が保障 → 本格展開期; 「学び支援基金」(仮称)のようなものをつくり、

国、企業、自治体、市民が出資してコーディネイターの活動の財源をつくる